

## タイ王国での日本語教育実習

神村千香子（言語系コース（英語））

近藤千晶（言語系コース（英語））

私たちは、2016年11月20日（日）から25日（金）にかけてタイ王国を訪れ、現地の中学生・高校生を対象に、日本語教育実習に行ってきました。



神村は、バンパイ学校の高校2年生（写真左上）とコンケン大学附属校の中学3年生（写真右上）を対象に、書道の授業を行いました。授業では、筆の持ち方を一緒に練習したり、「墨を磨る」体験をしてもらったりしました。生徒の皆さんは書道に触れるのが初めてだったようですが、みんな「楽しい！」と言いながらも、楽しんで字を書いています。授業後、生徒の皆さんから、「字を書くのが楽しかった」や「書道が好き」といった感想をもらいました。授業実践を通して、クラスマネジメントの難しさや教師と生徒とのコール&レスポンスの大切さを改めて痛感し、非常に良い経験となりました。



近藤は、バンパイ学校の高校1年生（写真左上）とコンケン大学附属校の高校1年生（写真右上）を対象に、俳句の授業を行いました。季語や五七五などの俳句のルールを学習した後に、実際に俳句を作る活動を行いました。生徒の皆さんが作った俳句には、「あついひる みずかけまつり たのしいな」や「あめのよる とともしずかな ホリデーだ」など、タイの行事や気候にまつわるものが多く、タイの文化を感じ取ることができました。



左上の写真は、昨年度まで鳴門教育大学大学院言語系コース（国語）で勉強されていた、オンター・タナボディー先生（現：コンケン大学教育学部日本語教育課程の日本語教師）による、漢字の授業の様子です。右上の写真は、オンター先生の授業で出された漢字の問題を、私たちもコンケン大学の学生さんたちと一緒に解いている様子です。オンター先生が出された問題は、日本人の私たちでも非常に難しく、改めて、漢字のつくりや漢字の教え方などを考えさせられました。また、オンター先生の授業後には、本学言語系コース（国語）の田中大輝先生も漢字の授業をされ、様々な『漢字を楽しく学び、教える方法』を教えてくださいました。とても学びの多い、充実した一日となりました。



左上の写真は、ワット・ノンウェーンというお寺の写真です。9階にある展望台に上ったり、おみくじを引いたり、お花を買ってお祈りをしたりしました。右上の写真はトンタンというナイトマーケットでの夕食の様子です。オンター先生、そしてコンケン大学教育学部日本語教育課程の学生さんたちが連れて行ってくれました。ソムタムやカオマンガイなど、皆がそれぞれに食べたいものを屋台で購入して食べました。タイの文化に触れることができ、私たちにとってとても豊かな経験になりました。

バンパイ学校・コンケン大学附属校・コンケン大学教育学部日本語教育課程の先生方、コンケン大学の日本語教育実習生の皆さん、授業を受けてくれた両校の生徒の皆さん、私たちの実習に同行してくださった本学の先生方など、多くの方々が支えてくださったおかげで、自分たちの満足のいく授業ができました。本当に感謝しています。また、タイの人々の優しさやタイの文化の素晴らしさを身をもって実感することができ、非常に貴重な経験をさせていただきました。この経験を、将来、子どもたちに伝えていきたいと思えます。